弥生時代以降の時代の調査成果

今回調査を実施した全ての調査区で、中世（平安時代後期、鎌倉時代後期～室町時代）の掘立柱建物跡・柱穴・土坑・溝が検出されています。とりわけ、掘立柱建物跡は３区で３棟、５区で１棟が見つかっています。昨年度の調査と合わせますと、中世の掘立柱建物跡は計 11 棟見つかっており、この辺り一帯には、中世の集落が広がっていたことがわかりました。

遺物は、土師器の鍋・甕・すり鉢、須恵器、青磁などが出土しています。

写真１　３区 掘立柱建物を含む柱穴群

写真２　５区 掘立柱建物

ーまとめー

今回の調査の結果、弥生時代前期～室町時代の遺構と遺物が見つかりました。中でも重要なのは、弥生時代前期の方形周溝墓と土器棺墓です。それによって、この辺り一帯が墓域であったと考えられます。この墓域は、大溝（SD67）と、昨年度調査で検出された大溝に囲まれた南北約 65 ｍの空間に形成されています。この溝に囲まれた弥生時代前期の墓域の発見が、最も大きな調査成果です。

昨年度の調査成果と合わせて考えますと、石棒・土偶（昨年度出土）といった縄文系の遺物と、方形周溝墓・弥生土器・石包丁といった弥生系の遺構・遺物が、同一の遺構面で近接して見つかりました。これらのことから、墓や祭祀の点で縄文文化から弥生文化へ移行する様子が明らかとなり、重要な事例であると言えます。

弥生時代の墓制 ～方形周溝墓～

方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）とは、溝によって四角く区画され、その内側に土を盛り墳丘を造り死者を埋葬するお墓です。方形や円形の周溝墓は、弥生時代になって造られ始めました。

兵庫県では、弥生時代前期の方形周溝墓はこれまで４遺跡で見つかっています。今回、玉津田中遺跡では方形周溝墓が２基見つかり、昭和 63 年度調査（図１の☆印）の結果と合わせると、計４基が確認されています。

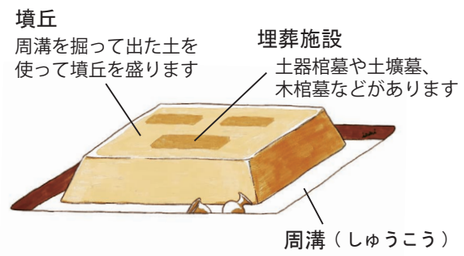


表１　兵庫県内の弥生時代前期方形周溝墓

	遺跡名	所在地	検出基数
1	玉津田中遺跡	神戸市西区	２基
	玉津田中遺跡（昭和 63 年度）	神戸市西区	２基
2	雲井遺跡	神戸市中央区	２基
3	東武庫遺跡	尼崎市	18 基
4	駄坂・舟隠遺跡	豊岡市	８基

玉津田中遺跡

（たまつたなか）

令和２年８月 30 日（日）

現地説明会資料

兵庫県教育委員会
（公財）兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
〒675-0142
兵庫県加古郡播磨町 1-1-1 兵庫県立考古博物館内
URL：http//www.hyogo.ctc.or.jp

ーはじめにー

玉津田中遺跡は、神戸市西区玉津町及び平野町に位置する遺跡です。

一般国道２号（第二神明道路）の建設に先立ち、（公財）兵庫県まちづくり技術センターが兵庫県教育委員会からの委託を受け、2019 年度より発掘調査を行ってきました。

今回、№171 地点を調査しました。調査箇所は、2019 年度に実施した１区の南北両隣りです。現地説明会では、このうち２・４・５区の弥生時代の調査成果をご覧いただきます。

玉津田中遺跡の概要

遺跡は、明石川中～下流域の沖積地から台地上にかけて広がります。昭和 50 年代から土地区画整備事業や圃場整備事業に伴い、兵庫県教育委員会や神戸市教育委員会によって発掘調査が行われてきました。

なかでも昭和 57 年～平成３年にかけて、ウインズタウン西神戸の区画整理事業に伴って、約 80,000 ㎡もの大規模な発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代晩期～古墳時代後期の集落と、平安時代後期から鎌倉時代の集落・居館跡が確認されました。

この調査の特筆すべき点は、弥生時代中期の集落の成果にあります。遺構は、竪穴住居跡が 50 棟以上、方形周溝墓が 40 基以上検出され、土器棺墓や土壙墓も見つかりました。また付近からは広範囲に及ぶ水田の痕跡が見つかりました。遺物についても、土器・石器・木器・青銅器など多彩なものが出土しています。これらのなかには、遠方の地域からもたらされた土器や石器が含まれ、この遺跡に住んでいた人々の交流の様子を窺うことができます。このように、玉津田中遺跡の弥生時代中期は居住域・生産域（水田）・墓域と三拍子が揃い、広域的な交流が見られる播磨地域を代表する拠点集落であると言えます。

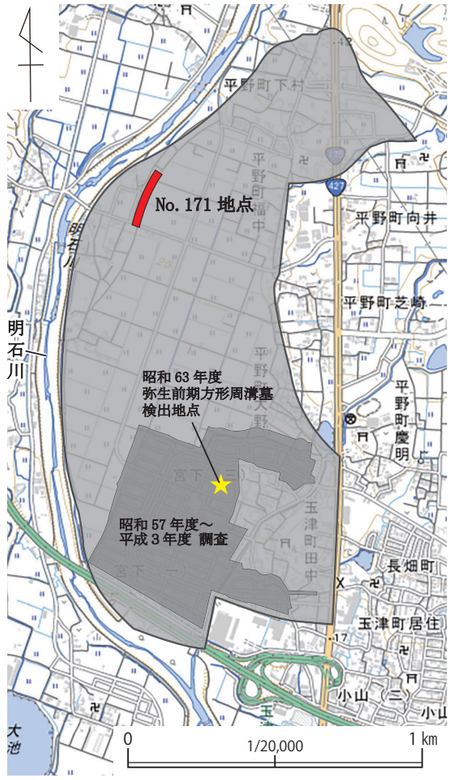
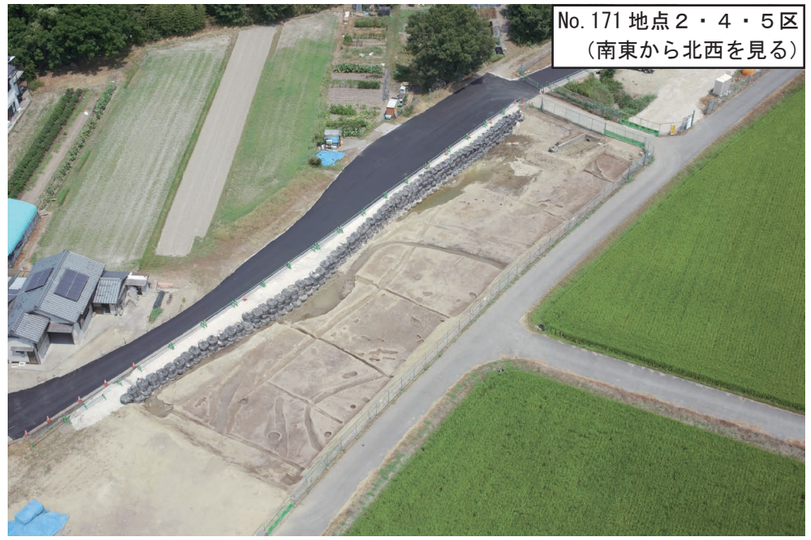


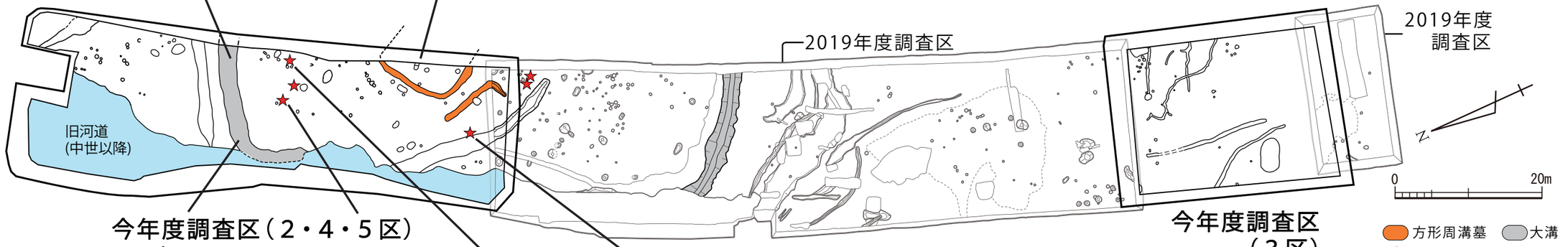
図１　玉津田中遺跡の遺跡範囲と
今回の調査箇所

弥生時代前期の調査成果

大溝の規模は幅 2.5 m、深さ 1.1 mです。西側は中世以降の旧河道によって削られていますが、東から南に向けて曲がっていることが分かります。溝の中からは、多量の土器や石器、土製紡錘車が出土しています。

1号方形周溝墓は、墳丘が削平されていますが、残存する範囲では北東－南西方向に約 10 mを測ります。周溝は幅 80㎝、深さ 40㎝で、墓に供えていた土器が出土しています。東半部は調査区外のため未調査です。





大溝からは、土製の紡錘車（糸を紡ぐ道具）が出土しています。

土器棺墓１は、壺を用いています。土器は斜めに据えられた状態で出土しており、土圧によって上半分が潰れています。

土器棺墓３は土圧によって大部分が潰れています。

土器棺墓４は、甕を用いています。土器はやや斜めに据えられた状態で出土しています。

３区から出土した石包丁は、紀伊地域が原産の緑泥片岩を使用しています。